

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(宇治山田高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	生徒の自主性を尊重し、生徒が協力し合い高め合う学校生活を通して、知性と教養、豊かな人間性を育み、進路希望を実現する学校	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none">○ 志を持って、自ら学び、判断し、行動することができる生徒○ 豊かな人間性を備え、自らを律し、他者を思いやり、他者と協力することができる生徒○ 目標に向かって、失敗を恐れず努力し、諦めることなく挑戦を継続することができる生徒
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none">○ 情熱と誇りを持ち、生徒を第一に考え行動できる人間性豊かな教職員○ 目指す学校の姿の実現に向かって、やりがいを感じ、仲間と協力し、ともに成長していく元気な教職員○ 専門的な指導力と社会性、高いコンプライアンス意識を持ち、生徒・保護者や地域の方々から信頼される教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要望・期待	<p>《生徒》 ほとんどの生徒が大学進学を希望しており、その実現のため学習活動の充実を期待している。また、多くの生徒がクラブ活動にも熱心に取り組んでおり、学習活動との両立を望んでいる。</p> <p>《保護者》 学習活動の充実、学習とクラブ活動との両立に加えて、学校からの情報提供を求めている。</p> <p>《地域》 各分野におけるリーダーとなりうる人材の育成を求めている。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	《家庭》学校からの情報提供 《地域》地域を担う人材の育成 《同窓会》学校の活性化、生徒の活躍	《家庭》本校の教育方針・教育活動への理解と協力 《地域》教育活動への理解と協力 《同窓会》教育活動への理解と協力

(3)前年度の学校関係者評価など		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人ひとりの進路希望を実現するために、教職員一丸となって丁寧に取り組んでおり、それが成果となって現れている。一方、教職員への負担が心配である。 ○ わかりやすい授業であると感じている生徒は86.3%いるが、さらに理解を定着させることができるとなおよい。 ○ アンケート結果は、学年によって差があると思うので、その分析も必要だと感じる。 ○ 遅刻が増加したが、その背景となる課題について、解消していけると良い。
(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒は、素直で真面目であり、規律を守り、学習活動や部活動に熱心に取り組んでいます。将来、社会の一員として、また地域を担う人材として活躍できるよう、自ら学ぶ態度や主体性を育み、一人ひとりが持つ可能性を一層引き出していく必要があります。 ○ 教職員は、生徒の進路希望を実現するために、課外授業やきめ細かな進路指導等に取り組んでいます。学校全体でより効果的な指導ができるよう、検討を進める必要があります。 ○ 進路や友人関係等、様々な悩みを抱える多感な時期の生徒が、安心して学校生活を送れるよう、一人ひとりに応じた丁寧な対応が求められています。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員は、教科指導や担任業務、各分掌や各学年の業務に責任感を持って取り組んでいます。今後もより良い教育を継続的に提供していくため、学校全体で取り組んでいく必要があります。 ○ 地域の中学校卒業生数の減少に伴い、本校の今後の方向性を検討する必要があります。 ○ 教職員は教育の質を維持できるよう、やりがいを感じながら指導にあたっていますが、多忙化が課題となっています。 ○ 学校を取り巻く環境が、多様化・複雑化しており、教職員が互いに協力しながら業務を進めることが必要となっています。 ○ 生徒や保護者との信頼関係をより強いものとしていけるよう、保護者への丁寧な情報発信やコンプライアンスの徹底に取り組んでいく必要があります。

3 中長期的な重点目標

<p style="text-align: center;">教育活動</p> <p>【カリキュラム・ポリシー】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科や総合的な探究の時間、学校行事や生徒会活動など、学校生活全般にわたって、生徒が主体となって考え、協力して取り組む活動を充実し、学力の向上とともに、主体性、社会性、協調性などの育成に取り組みます。 ○ 国公立大学をはじめとした生徒の進路希望が実現できるよう、基礎・基本を大切にし、授業や指導方法の研究に取り組み、学校全体で計画的な指導を進めます。 ○ 生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談の充実に取り組むとともに、人権教育やホームルーム活動、学校行事等を通じて、自他を大切にする心や行動力の育成に取り組みます。
--	---

学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員が生徒一人ひとりを大切にしている視点を持って、教科指導、進路指導、生徒指導、教育相談等の教育活動に継続して取り組めるよう、全教職員への情報提供に努めることにより、学校全体で目的や方向性を共有し、組織力の強化に取り組めます。 ○ 積極的に情報共有や相談を行うことにより、教職員が業務や生徒の指導をひとりで抱え込むことのない、互いに助け合い支え合う環境づくりを一層進めるとともに、業務の精選や平準化などに努め、勤務時間の縮減に取り組めます。 ○ 県立高等学校活性化計画や国の動向をふまえ、将来的な学校のあり方について検討を進めるとともに、生徒・保護者や地域から一層信頼される学校となるよう、コンプライアンスの確保、情報発信の充実に取り組めます。
-------	---

4 求める生徒像

入学時に期待される 生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら考え、学ぶことができる生徒 ○ 他者を思いやり、他者と協力することができる生徒 ○ 目標に向かって、挑戦し続けることができる生徒
---	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導 の充実	<p>新しい学習指導要領や大学入学共通テストの趣旨を踏まえた授業改善や指導方法の工夫、ICT を効果的に活用した学習活動の充実などに取り組むとともに、授業アンケートを実施し、組織的に改善を進め、学力の向上と自ら学ぶ態度の育成に取り組めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒対象の授業アンケートの実施 年2回 ○ 授業改善のための研究授業、教職員研修 2回以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業がわかりやすい」と回答した生徒の割合 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○1回実施 ○2回実施 ○83.6% 	◎

<p>キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>生徒が自己の将来とのつながりを見通しながら、目的を持って希望する進路を決定し、実現できるよう、各種ガイダンス、大学見学会、出前授業、進学希望者集会、卒業生との進路懇談会などを計画的に実施するとともに、3学年の学年会を毎週開催し、組織的に進路指導を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 卒業生等による進路懇談会・相談会の実施 3回以上 ○ 保護者向けの進路講演会等の実施 1回以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標を持って努力している生徒の割合 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○3回 ○2回 ○73.7% 	
<p>生活指導の充実</p>	<p>(生徒指導)</p> <p>安心して学校生活が送れるよう、いじめ等の防止、早期発見に取り組むとともに、社会の一員として、必要なマナーや礼儀などが身につけられるよう挨拶や服装指導等に取り組みます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的な校門指導と家庭との連携 随時 ○ いじめに係るアンケートの実施 学期に1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遅刻生徒数 対前年度比5%減 	<ul style="list-style-type: none"> ○随時実施 ○学期に1回実施 ○35%増 	※
<p>安心して学べる環境づくり</p>	<p>(生徒会活動)</p> <p>学校行事やいじめ防止活動などを、生徒会が主体となって企画立案、実施する取組を充実し、生徒の主体性や行動力の育成に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会による学校行事や活動の企画立案、実施 3回以上 <p>(教育相談)</p> <p>様々な悩みや不安を抱える生徒へのきめ細かな支援を行うため、教育相談体制の充実、個別面談の実施、生徒の支援に関わる情報の共有などに取り組みます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個別面談の実施 3回 ○ 生徒の支援に関わる情報の共有 必要に応じて適宜 	<ul style="list-style-type: none"> ○3回以上 ○3回 ○適宜実施 <p>体育祭、クラスマッチ 山高祭、合唱祭、あいさつ運動、募金活動等</p>	※

改善課題

学習指導の充実について

授業においては、年間を通して授業時間の確保に努め、生徒の進路希望実現のため継続的に授業改善を図っている。一方で、「授業がわかりやすい」と回答した生徒の割合が83.6%で、前年度の86.3%と比べ低下している。近年、多様な生徒の入学にともなって、生徒の学力の差も広がってきている。このことから、基礎学力の定着や学習習慣の確立を徹底するとともに、生徒が主体的に学習をすすめられるように授業の在り方を再考する必要がある。

キャリア教育・進路の指導の充実について

入学当初の「学習のすすめ」から、2学期の文理選択の考え方、分野別大学模擬授業等、各学年で適切な時期に進路ガイダンスを行うことによりキャリア教育、進路指導を充実させ、生徒の進路希望実現にむけた取組をすすめている。また、各学期に1回行っている担任との面談も生徒にとって進路について考える重要な機会となっている。保護者に対する進路情報の提供も積極的に行い、家庭と連携してキャリア教育・進路指導をすすめていく必要がある。

生徒指導の充実について

年間をとおした登下校指導や日々の声かけにより、生徒と教職員がしっかり信頼関係を構築し、生徒は安全に安心して学校生活を送ることができている。1人の生徒に対し、それぞれの立場から複数の教職員がかかわることを意識し、生徒の気になる様子があれば管理職も含めてすぐに情報共有を図るように努めた。遅刻生徒数の増加は改善が必要なところである。特定の生徒が遅刻を重ね、そのような生徒が複数名いるという状況である。抜本的な対策が必要である。

安心して学べる環境づくりについて

個別面談やスクールカウンセラーによる相談等により、生徒が相談しやすい環境づくりに努めている。今年度もスクールカウンセラーによる相談を希望する生徒は多く、相談内容も友人関係や進路・学習に関すること、家族関係など多岐に及んでいる。教育相談係を中心に、校内で情報共有を図るとともに、校外の関係機関とも連携し生徒が安心して学校に通うことができるように努めた。今後もスクールカウンセラーの配当時間の増加を県教育委員会に要望していく必要がある。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校組織の活性化	<p>学校全体の教育力を向上し、教育活動を効果的かつ継続的に進め、よりよい教育を提供していくため、校内の情報共有や協力体制の強化、校内研修の実施などにより組織力の向上に取り組めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育推進委員会や各学年会などでの情報共有 毎週 ○ 分掌間、学年間の情報共有の促進 随時 ○ ケース会議の開催 随時 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎週実施 ○随時実施 ○随時実施 	※
働きやすい学校づくり	<p>教職員が健康で元気に生徒の指導に注力できるよう、休暇取得の促進、定時退校日の設定、部活動休養日の設定、業務の精選などを通じて総勤務時間の縮減に取り組めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定時退校日の設定 月1日以上 定時退校日等に定時退校した教職員の割合 100% ○ 部活動休養日の設定 1週1日以上 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ○ 委員会や会議の精選、会議時間の縮減 1時間以内 1時間以内に終了した会議の割合 95%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時間外勤務が年360時間を超える教職員数 0名 ○ 時間外勤務が月45時間を超える教職員の延べ人数 0名 ○ 教職員の時間外勤務時間の平均 23時間以内 ○ 休暇取得日数 18.5日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○91% ○100% ○55% ○10名 ○44名 ○20.8時間 ○19.9日 	※ ◎
信頼される学校づくり	<p>(保護者・地域への情報発信)</p> <p>保護者や地域の方々から一層信頼される学校となるよう、学校の教育活動や魅力について積極的に情報を発信します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者への説明会 3回以上 ○ 報道機関への資料提供 3回以上 <p>(コンプライアンスの向上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○3回以上 ○3回以上 	

	<p>学校信頼向上委員会の取組や教員研修等を通じて、コンプライアンス意識の向上に取り組むとともに、教職員が一人悩みや不安を抱え込まず、助け合い支え合う学校づくりを進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校信頼向上委員会 学期に1回以上 ○ コンプライアンス研修・ミーティングの実施 学期に1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不適切な事案の発生件数 0件 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期に1回 ○学期に1回 <ul style="list-style-type: none"> ○0件 	
--	---	---	--

改善課題

学校組織の活性化について

各学年や分掌、部活動等で生徒とのかかわりを大切に、信頼関係を構築することに努め積極的な情報共有を図った。そのことがさまざまな課題に対する未然防止・早期対応につながったと考えている。今後もICTを活用するなど教職員の働き方改革をすすめながら組織の活性化に取り組んでいく必要がある。

働きやすい学校づくりについて

教職員にとっても互いに支え合い、相談しやすい学校づくりに努めているところである。管理職からも一人ひとりの教職員に対し、積極的に声かけを行っている。一方で、総務事務時間の縮減には今後も継続的な取組が必要であり、これまでの取組についてもその目的やねらいを再考しながら業務の精選を行う必要がある。特に、会議時間の縮減は重点的に取り組む必要がある。

信頼される学校づくりについて

学校説明会や進路説明会には多くの保護者が参加し、学校に対する関心の高さが感じられるところである。PTAからも学校行事の保護者公開を希望する声が多く、来年度は文化祭や合唱祭での保護者公開を検討しているところである。また、地域にも報道機関への資料提供等により積極的に情報発信を行い、学校の取組への理解をすすめていく必要がある。学校の信頼向上にも引き続き取り組み、複数での対応・確認を徹底していくことが必要である。

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山高がどのような学校を目指すのか、再度、教職員で認識を共有することが大切である。生徒の進路希望を実現する学校、それが山高の良さだと思う。 ・入学する生徒の変化に応じて、高校も変化が求められているのではないか。 ・生徒が学習の成果を実感できるよう、授業において目標の明示やふりかえりが重要である。
----------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・生徒の進路希望を実現するため、組織的継続的に授業改善に取り組む。特に、生徒が学習の成果を実感できるよう、授業において目標の明示やふりかえりを行うようにする。・各学年でキャリア教育、進路指導を充実させ、日々の学習と自分の将来とのつながりを意識できるようにする。・授業や部活動等での生徒の様子などについて、教職員間で積極的に情報共有を行い、問題の未然防止、早期発見に努める。・相談しやすい雰囲気を醸成し、生徒の抱える課題を把握したうえで、保護者や関係機関と連携を図るようにする。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・学年、分掌間での情報共有を行い、さまざまな課題に対しチームで取組をすすめるようにする。・教職員が互いに支え合い、相談しやすい職場となるよう努め、総勤務時間の縮減に組織的継続的に取り組む。・保護者や地域に積極的に情報発信を行うことで、学校の取組を理解してもらい協力を促す。